

## 1. 授業の概要(ねらい)

『学習心理学I』に引続き、主に実験行動分析学の枠組から、我々ヒトを含む動物の行動変容の法則に関して、特に重要なテーマを取り上げ、その基本概念、古典的な実験の意義、重要な現象について講義する。

## 2. 授業の到達目標

ヒトを含む動物の行動変容に関する重要なテーマについて、科学的な原理に基づいて記述し、その代表的実験例を説明できる。

## 3. 成績評価の方法および基準

学期末試験の成績のみで成績を決める。試験には所定の持ち込み用紙だけの持ち込みを認め、持ち込み用紙の内容30点、事前予告問題20点を含め、100点満点で評価する。配布資料、参考書類の持ち込みは認めない。

## 4. 教科書・参考文献

### 教科書

テキストは使用しない。以下の書籍は理解を深める上で有益であろう。

### 参考文献

小野浩一 『行動の基礎』(2016) 培風館  
実森正子・中島定彦 『学習の心理:行動のメカニズムを探る』(2000) サイエンス社  
レイノルズ G. S. 浅野俊夫(訳) 『オペラント心理学入門』(1978) サイエンス社  
佐藤方哉 『行動理論への招待』(1976) 大修館書店  
小川隆(監修) 『行動心理ハンドブック』(1989) 培風館

## 5. 準備学修の内容

講義を聞く前に、毎回のテーマについて予習し、基本的な概念と専門用語は一通り知っておくこと。授業後は、毎回ノートを整理し、参考書等を参照しつつ講義内容を十分に理解すること。

## 6. その他履修上の注意事項

春学期の『学習心理学I』と継続して履修することが望ましい。講義を十分に理解するには予習ないし復習は不可欠である。尚、授業中の私語には厳しいペナルティを課す。

## 7. 授業内容

- |        |                      |
|--------|----------------------|
| 【第1回】  | 授業方針の説明、関連書籍・文献の紹介   |
| 【第2回】  | オペラント随伴性と強化スケジュール    |
| 【第3回】  | 複雑な強化スケジュール          |
| 【第4回】  | 選択行動と定量的行動分析(1)      |
| 【第5回】  | 選択行動と定量的行動分析(2)      |
| 【第6回】  | 回避と罰の随伴性             |
| 【第7回】  | “衝動性”とセルフ・コミットメント    |
| 【第8回】  | 複雑な刺激性制御             |
| 【第9回】  | 刺激性制御と概念行動           |
| 【第10回】 | 条件性弁別と高次オペラントクラス     |
| 【第11回】 | 等価関係                 |
| 【第12回】 | 機能と随伴性による言語行動の分類     |
| 【第13回】 | 言語行動としての意識:私的出来事のタクト |
| 【第14回】 | 言行一致:非言語行動と言語行動の相互関係 |
| 【第15回】 | まとめ                  |